

積算システムにおける 機械ボーリング（土質ボーリング・岩盤ボーリング）の端数処理について

機械ボーリング（土質ボーリング・岩盤ボーリング）における補正係数の端数処理は、積算システムでは以下のとおりの考え方で積算されています。

機械ボーリング（土質ボーリング・岩盤ボーリング）

$$S = Q \times L \times (K1 \sim K7) \times (K8 \sim K15)$$

S ：設計価格

《有効数字4桁（5桁目以降を切捨て）》

Q ：標準の市場単価

L ：せん孔延長

$K1 \sim K7$ ：せん孔深度の補正係数

$K8 \sim K15$ ：せん孔方向の補正係数

$(K1 \sim K7) \times (K8 \sim K15)$ ：補正係数

《少数第2位（少数第3位四捨五入）まで算出》

《算出例》

土質ボーリング

- ・ せん孔深度： $L = 80m$ （粘性土・シルト： $L1 = 60m$ 、砂・砂質土： $L2 = 20m$ ）
- ・ せん孔方向：斜め下方
- ・ 粘性土・シルトの設計価格： $S1$
- ・ 砂・砂質土の設計価格： $S2$
- ・ 粘性土・シルトの市場単価[50m以下]： $Q1$
- ・ 砂・砂質土の市場単価[50m以下]： $Q2$
- ・ 補正係数（せん孔深度）： $K2$ （50m 超 80m 以下）
- ・ 補正係数（せん孔方向）： $K9$ （斜め下方）

$$\text{補正係数} = K2 \times K9 \quad (\text{少数第2位止め 少数第3位四捨五入})$$

積算システムでは、以下のとおりに $S1$ 、 $S2$ と別々に計上しています。

$$\begin{aligned} S1 &= Q1 \times L1 \times K2 \times K9 \\ &= Q1 \times 60m \times \text{補正係数} \quad (\text{有効数字4桁（5桁目以降を切捨て）}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} S2 &= Q2 \times L2 \times K2 \times K9 \\ &= Q2 \times 20m \times \text{補正係数} \quad (\text{有効数字4桁（5桁目以降を切捨て）}) \end{aligned}$$